速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報
ＪＲ総連 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震) 緊急対策本部情報
2011年7月20日
№47
発行：全日本鉄道労働組合総連合会

頑張ろう！被災者のみなさん。

連合救援ボランティア第１４陣

地元の切望と社会の矛盾を感じた５日間

側溝のフタが固着しているためジャッキで持ち上げることも／14陣前半の参加者

差し入れられたアイスクリームを手に／流された住宅が放置され、草が生え始めている（塩竈市近郊）

７月10日から15日まで取り組まれた「連合救援ボランティア」第14陣に、ＪＲ総連はＪＲ北海道労組、ＪＲ貨物労組、鉄研労、ＪＲ総連から14名が参加しました。これまで活動している岡田地区を引き継ぎ、作業も側溝のヘドロ除去が中心でした。

連日の猛暑の中、他のグループでは体調を崩す人も出る状況でしたが、住民の人たちからのアイスクリームや飲み物などの差し入れに力を取り戻し、５日間の作業を無事貫徹しました。

一方で、よその人たちがこんなにがんばっているのになぜ行政はちゃんと仕事をしないのだ、せめてお礼ぐらい言いに来るべきだという地域の声もありました。

連合の計らいで周辺の被災地の視察もありましたが、仙台市からわずかしか離れていないにもかかわらず、ほとんど手つかずといえるような場所が多数ありました。あらためて津波被害の大きさに驚くとともに、ボランティアだけでなく、実態を社会に伝え、政府や行政を突き動かしていくことの必要性も痛感しました。

15陣もすでに出発し、ＪＲ総連は現在の岡田地区とさらに別の場所での復旧作業に取り組んでいます。さらに８月からは気仙沼へと拠点を移す予定です。